

中部CLEエネクス会

垣見氏招き研修会

「油外収益重視の方向に」



あいさつする森会長

【名古屋】中部CLEエネクス会(森章会長)は七日、名古屋市中村区のキャッスルプラザで「二〇一二年度経営者研修会」を開催した。垣見油化の代表取締役専務で石

油・エネルギー業界アナリストの垣見裕司氏を講師に招き、石油業界の現状やエネルギー事情の将来予測を踏まえたSS経営のあり方を学んだ。冒頭、森会長が「東海地方は自動車産業の集積度が高いが、先行きは不透明。エコカーの普及で、石販業界にボディブローのように効いてきた。今日の講演を今後の経営に役立てていただきたい」とあいさつした。

講演に先立ち、伊藤忠エネクスの中村日出男取締役・執行役員カーライフ事業本部長があいさつに立ち、「ACTプログラムのカーライフ収益が対前年二二〇%と好調。エネクスグループの方向性に



垣見氏は水素スタンドビジネスを提唱した

演題 「燃いなる、燃いする 激動のSS業界2013」
石油エネルギー業界アナリスト 垣見油化株式会社代表取締役専務 垣見裕司氏

S当たり月間百キロの販売数量。一般特約店・販売店はその九〇〜九三%の見込み。油外収益を重視せざるを得ない状況になるのではないかと説明した。

日本のエネルギー事情については、「水素がより注目されることになると述べた。例として、水素ハキダを充てんした高圧タンクを搭載する燃料電池自動車(FCV)の一充てん走行可能距離を五百キロ以上、水素一キロ当たり販売価格千円を想定。「水素ハキダで停車時に最大二十キロ時、連続で十キロ時、計百五十キロの発電が可能。六千円で百五十キロ発電すれば、一キロ四十円の発電コスト。動く中型発電機として震災対応に最適」と述べた。

さらに「JX日鉱日石エネルギーが今年度中

なる。東京のSS千四百力所、タンク平均三十キロ、在庫十五キロ程度。総量は二万キロ程度。在庫切れによる不安が発生する可能性が高い」と指摘し、「国、地方自治体は遊休SSを活用して製品を在庫すべき」と提言した。

SS業界の動向、展望

では、「高齢化、経済成長停滞、次世代自動車普及を含む燃費改善、交通流対策の進展などにより、今後十年でガソリン需要半減が持論」と強調。続けて「資源エネルギー庁の推計である三〇年のガソリン需要年間二千四百万キロを前提に、SS数二万とするとSS

に、名古屋市内のSSでアイランドと並べて水素計量機を設置する。水素は石油業界に任せるとの意見は、ハチフコンテナに機能を集約したオフサイト方式(水素ボンベ持ち込みカローリ届け)でスモール・ローコストを実現することがSSのビジネスモデルとして望ましいと考えている。水素は危険物で、SSにしかできない。脱原発、分散発電機としてのFCV需要増加で、損益分岐点への到達が早まる」と強調した。

最後に「生き残るためには、平均以上の運営力、競争力、魅力が必要。ES(従業員満足度)向上とコーチングにより、地域でのオンリーワンを実現。トップからアルバイトまで徹底議論し、社員の立場で考え

に、名古屋市内のSSでアイランドと並べて水素計量機を設置する。水素は石油業界に任せるとの意見は、ハチフコンテナに機能を集約したオフサイト方式(水素ボンベ持ち込みカローリ届け)でスモール・ローコストを実現することがSSのビジネスモデルとして望ましいと考えている。水素は危険物で、SSにしかできない。脱原発、分散発電機としてのFCV需要増加で、損益分岐点への到達が早まる」と強調した。

最後に「生き残るためには、平均以上の運営力、競争力、魅力が必要。ES(従業員満足度)向上とコーチングにより、地域でのオンリーワンを実現。トップからアルバイトまで徹底議論し、社員の立場で考え

コーチングで気づいてもらい、やる気や満足度を高める。やりがいのある

給与システムと評価制度に営業時間短縮を含め、会社と社員の心とベクトルを合わせて究極の効率経営を目指すべき」と持論を述べた。